

伝統技術を融合し貴重な遺構を よみがえらせる／御常御殿

建築設計：（基本設計）日本造園設計(株)（実施設計）真中建築設計
建築施工：(有)社寺工房上野／左官施工：吉村興業(株)

太平洋に浮かぶ雄大な伊豆大島を間近に眺め、眼下に相模湾を見下ろす高台に瀟洒な佇まいの書院造りの建物がある。静岡県東伊豆町にある宗教法人所有の施設「御常御殿」だ。30年ほど前にこの地に移築された建物は、海から吹き上げる風雨に晒され、雨漏りによって至る箇所が損壊していた。そこで、このほど御常御殿の大規模改修工事が行われることとなった。

本稿では、現場工事の責任者である建築施工担当の(有)社寺工房上野の上野健二社長、左官施工の吉村興業(株)の吉村誠社長に改修工事の概要と左官施工のポイントなどを伺った。

（編集部）

貴重な建物をよみがえらせる

改修工事に至る経緯について教えてください——

上野：この建物は元々、京都御所にあったものが人づてに渡り、30年ほど前にこちらに移築されたものと聞いています。今回の改修工事に携わるにあたり京都御所を訪れましたが、金物などの意匠はそのままでした。それで御常御

殿という名前に納得がいったわけです。

改修に至る経緯については、徳雄山建功寺の住職で日本造園設計(株)代表の枅野俊明氏がこの地を訪れ、手付かずに残っていた建物をご覧になり、「これは絶対に修復しなければならない」と考えられたそうです。そこで、以前に建功寺本堂の工事に携わった職人が再び集められ、今回の改修工事が始まりました。

吉村：建功寺本堂も素晴らしい建物です。住職の枅野さんは世界的にも著名な方で、世界の著名人100人に選ばれたほか、多くの著書も執筆されています。私も建功寺の左官工事を担当させていただきました。

30年程度で改修が必要になるほどの原因は何でしょう——

上野：瓦屋根がしっかり葺かれているのにもかかわらず雨漏りが起きていました。その根本的な原因が解明できなければ、何度改修工事をやっても結果は同じだと考えました。調査を進めると強風による破損箇所がいくつも見受けられました。海に面する高台に位置していますから煽るような海風が吹くことは容易に想像がつきます。30年前に移築された時から既に瓦屋根と下葺きの隙間から雨水が侵入